

## 北海道言語研究会例会報告

2013年4月1日から2014年3月31日までの研究例会は以下の日程で行われ、活発な議論がなされた。

2013年9月27日（金）14：00～17：00

発表者：塩谷 亨・島田 武・橋本 邦彦（室蘭工業大学）

タイトル：旧楳法華の漁業関連語彙について

14：00～15：00

発表者：三村 竜之（室蘭工業大学）

タイトル：アイスランド語ストレスアクセント調査報告

15：00～16：00

発表者：匹田 剛（東京外国語大学）

タイトル：ロシア語の有生性の一致について

16：00～17：00

2014年3月11日（火）14：00～17：00

発表者：三村 竜之（室蘭工業大学）

タイトル：グリーンランド・ヌーク市における二言語併用について

14：00～15：00

発表者：塩谷 亨（室蘭工業大学）

タイトル：ポリネシア諸語の名詞的小辞について

15：00～16：00

発表者：藤田 健（北海道大学）

タイトル：日本語とイタリア語の指示詞について

16：00～17：00

## 『北海道言語文化研究』 投稿規程

1. 『北海道言語文化研究』 への投稿は、資格を問わない。
2. 投稿内容は、未発表であり、かつ投稿時に、他の学会等への発表の応募または投稿を行っていないものに限る。
3. 原稿の応募は『WORD』で読める形式のファイル (doc または docx ファイル)と印刷時の体裁確認のための PDF ファイル、もしくは印刷したもの (1部)を提出する。  
宛先:92hashimot@gmail.com
5. 原稿の書式は、スタイルシートに準拠させる。  
<http://www3.muroran-it.ac.jp/hlc/style/index.html>
5. 本研究会による電子化による公開を、著者が本研究会誌に投稿した時点で許諾したものとする。<http://www3.muroran-it.ac.jp/hlc/journal.html>
6. 締切は各年度の 11 月 30 日とする。
7. 投稿された論文については、2名の匿名査読者によって査読を行う。
8. 掲載の可否は編集委員会が決定する。
9. 著者による校正は原則として初校のみとする。訂正は誤植に限るものとし、内容の変更は認めない。
10. 印刷費は著者が実費を負担する (印刷費用によって変動あり)。
11. 稿料は払わない。

(2010年3月)

## スタイルシート

- (1)使用言語:日本語もしくは英語。
- (2)原稿:『WORD』で読める形式のファイル (DOC ファイル )と印刷時の体裁確認のための PDF ファイル、もしくは印刷したもの (1部)を提出する。送付時に、WORD のバージョンを編集委員に知らせる。スタイルシートのテンプレートおよびPDF化用のフリーソフトに関しては、本研究会の WEB ページを参照。(URL: <http://www3.muroran-it.ac.jp/hlc/style/>)
- (3)余白(マージン ):上端 30mm 下端 25mm 左端 25mm 右端 25mm。
- (4)行数:37 行。ただし余白を遵守すれば、多少の増減は許容される。
- (5)字数:全角 39 文字または半角 78 文字。ただし余白を遵守すれば、多少の増減は許容される。
- (6)フォント:和文は MS 明朝、MS P 明朝、英文は Times New Roman のみを認める。特殊文字を使用する際には、unicode を用いることとし、その旨について投稿時に編集委員まで申し出る。
- (7)ポイント数および書体 :
- |        |           |                  |
|--------|-----------|------------------|
| 題名:    | 18 ポイント   | 太字 中央寄せ          |
| 氏名:    | 14 ポイント   | 太字 中央寄せ          |
| 要旨:    | 9 ポイント    | 「要旨」という文字のみ太字    |
| キーワード: | 10.5 ポイント | 「キーワード」という文字のみ太字 |
| 本文:    | 10.5 ポイント |                  |
| セクション: | 10.5 ポイント | セクション番号と題は太字     |
| 謝辞:    | 9 ポイント    | 「謝辞」という文字のみ太字    |
| 注:     | 9 ポイント    | 「注」という文字のみ太字     |
| 参考文献:  | 9 ポイント    | 「参考文献」という文字のみ太字  |
- (8)タイトルおよび氏名:和文と欧文の2種類で書く。本文と同じ言語を先にする。和文の姓と名の間には全角の空白を 1 つ入れる。欧文の氏名は姓をすべて大文字にする (例:John BINTLET)。和文と欧文それぞれの間に 1 行の空白を入れる。
- (9)ページ数:原則として図表を含め、20 ページ以内とする。
- (10)要旨:日本語でも英語でも可。場所はタイトルの下に 1 行空白を入れた後。分量は日本語の場合 400 字以内、英語の場合は 200 語以内。左右のインデントは全角 2 文字(半角 4 文字)、両端揃えにする。
- (11)キーワード:5 つ程度のキーワードを要旨の下に 1 行あけて書く。左右のインデントは全角 2 文字(半角 4 文字)。
- (12)セクション (節):セクションの番号は 1 から始める。セクションおよびサブセクションの番号の形式は問わないが、一貫した書き方になっていること。
- (13)段落:両端揃えにすること。段落の最初の文字の下げ方等の形式は問わないが一貫した書き

方になっていること。

(14)注:通し番号をつけて脚注もしくは後注とする。通し番号の形式に指定はないが、一貫していることと、番号が行頭に来ないようにすること。ただし過去における研究発表情報等はタイトルの後ろに\*(半角アスタリスク)を付加し、注の先頭で言及する。

(15)参考文献:文献は本文の後ろ、後注がある場合には注の後ろに付加する。形式は問わないが、一貫した書き方になっていること。

(16)執筆者紹介:①氏名、②所属機関・部署、③メールアドレス、④URI、⑤電話番号等を論文末に付加する。①は必須。②以降は任意で、その他の事項も付け加えることができる。現在の所属機関がない場合には、元～でも可。

(2014年2月6日改定)

## 雑誌の作り方\*

----- 1行あける-----

ジョン ビントレット (邦文)

----- 1行あける-----

## How to Make a Journal

----- 1行あける-----

**John BINTLET**

----- 1行あける-----

要旨：本稿では、雑誌の作り方について○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

----- 1行あける-----

キーワード：雑誌 校正 ○○○○ ○○○○○

----- 1行あける-----

### 1. (セクションの題)

本文はこちらから○○  
○○

#### 1.1. (サブセクションの題)

○○

----- 1行あける-----

### 2. (セクションの題)

○○○○○○○○○○

----- 1行あける-----

謝辞

\* ○○

----- 1行あける-----

注 (脚注でも可)

<sup>1</sup> ○○

----- 1行あける-----

参考文献

○

----- 1行あける-----

執筆者紹介

氏名：

所属：

Email：





## 編集後記

道内でも冬の温暖な室蘭。その室蘭でさえ根雪の上に薄らと雪が降り積もる二月、今年度も、我らが北海道言語研究会の会誌『北海道言語文化研究』の出版に向けて順調に作業が進みつつある。

今年2014年は冬季五輪の年。こうして筆を執る最中も、我が家のテレビは海の彼方ロシアでの開会式の模様を映し出している。もう二週間もすれば、テレビや新聞は「日本選手の活躍に日本中が感動」などといった文句で賑わうのだろう。

時に、私はこの「日本中が」といった類いの言葉が大嫌いである。自らの無関心故にその存在すら知り得なかった映画をメディアが取り上げ、「世界中が涙した感動のドラマ」などと評するのを耳にする度に、辟易する。一体、お前は「世界」を知っているのか、私は「世界」の一部ではないのか、と。こんな風にテレビを前に独り言つ度、傍らの愛妻は私を咎めるが、これも偏に職業病のなすところと思い、軽く受け流してほしい。

閑話休題。件の「日本中」や「世界中」に通ずる言葉に「みんな」がある。例えば、定期試験において不正を働いた学生を叱責すると「みんなやってる」と悪怖れもせず開き直りに近い弁明が返ってくるものだが、ここでいう「みんな」とは正にこの「みんな」のことである。この種の弁明を聞く度、私は決まって「みんなとは誰か？名前を挙げよ」と詰問する。なぜなら、理屈の上では「みんな」とは、この言葉を用いた当事者を含む或る集団からこの当事者を除いた全構成員を指す言葉であり、従って、「みんな」と宣う以上、件の学生は、自らを除く全構成員の名前を列挙する必要があるからである。しかしながら、十中八九、返ってくる言葉は「無言」である。先生に嗜められながらも、「えっとねえ、〇〇くんとねえ～、△△ちゃんだよ～」と幼気に答える園児たちの方が、二名も名前を挙げられるだけ優れていると言えようか。

否。今日日の学生の不甲斐無さや傍若無人振りへの憤りと憐憫を押し堪え、翻って、私の詰問に対する学生の返答と園児の返答のどちらが「大人の言語」として適切かと問えば、言わずもがな、答えは学生の方である。「世界中が涙した」と宣う者の脳裡に北極圏のイヌイットのことなど微塵も過るはずがないのと同じく、「みんな」と宣う学生のおつむに他者は存在しない。だからこそ、私の詰問が意味をなすのである。

言語とは、事程左様に道理に合わぬ側面を持つ。この「不合理さ」を習得することは「大人」になることを意味すると言っても過言ではないかもしれないが、とすれば、件の学生も言語能力の点では「大人」の仲間入りとを果たしたということか。豈図らず。

この不合理極まりない、それでいて汲めども尽きぬ魅力の泉を湛える言語。この言語に魅せられ、また言語を通じて紡ぎ出される言葉の世界に魅せられた総勢13名の学究から、この度本誌への玉稿を賜った。心よりお礼を申し上げる。読者諸兄姉も、必ずや、本誌を通じて魅惑の言語の世界に誘われることであろう。存分に楽しんでいただきたい。



北海道言語研究会 URL: <http://www3.muroran-it.ac.jp/hlc/index.html>

本研究会は談論風発のくだけた雰囲気が集まりで、言語に関するあらゆる分野に興味のある方に開かれています。皆様のご参加、ご発表、ご投稿を心よりお待ちしております。

### 『北海道言語文化研究』への投稿について

本誌に研究論文の投稿をご希望の方は、スタイルシートに則った原稿を下記宛にお送りください。締め切りは11月30日です(消印有効)。原稿受領後、編集委員が査読を行い、掲載の可否を決定します。発行後、本誌を数部(印刷費用によって変動します)進呈いたします。スタイルシートに則ったファイルをご希望の方は、本研究会WEBページからダウンロードできます。ご活用下さい。

### 研究発表について

本研究会では随時研究会を開催しています。研究発表をご希望の方は、下記宛に発表の題目と要旨をお送りください。持ち時間は発表40分質疑20分です。発表者は抄録を『北海道言語文化研究』に掲載することができます。開催日時に関しては、受付後、後日メーリングリストや本研究会WEBページでお知らせする予定です。

---

## 北海道言語文化研究 第12号

2014年3月30日発行

発行者:北海道言語研究会

連絡先:92hashimot@gmail.com

〒050-8585

北海道室蘭市水元町27-1

ひと文化系領域

北海道言語研究会事務局